

財務・会計

問題

第1問

A商店の決算にあたり、取引銀行から当座預金の残高証明書を取り寄せたところ、その残高は¥470,000円であり、A商店の当座預金残高とは一致していなかった。そこで不一致の原因を調査した結果、以下の事実が明らかになった。

1. 売掛金の回収として得意先振出しの小切手¥60,000を受け取り、その時点で当座預金の増加として処理していたが、決算日現在、金庫に入れたままで銀行への預け入れを行っていなかった。
2. 決算日に売上代金¥85,000を銀行の夜間金庫（当座預金）に預け入れたが、銀行では営業時間を過ぎていたため、当日の入金としては処理していなかった。
3. 仕入先に対して買掛金の支払いとして小切手¥120,000を振り出して渡したが、決算日現在、仕入先は小切手を銀行にまだ提示していなかった。
4. 電子債権記録機関より発生記録の通知を受けていた電子記録債権の支払期日が到来し、当座預金の口座に¥90,000が振り込まれていたが、決算日現在、この取引の記帳はまだ行っていなかった。

このとき、A商店の貸借対照表に計上される当座預金の金額として、最も適切なものはどれか。

- ア 405,000円
- イ 435,000円
- ウ 500,000円
- エ 535,000円

第2問

次の固定資産のうち、無形固定資産として最も適切な組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a 商標権
- b リース資産
- c のれん
- d 長期前払費用
- e 電話加入権

〔解答群〕

- ア aとbとd
- イ aとbとe
- ウ aとcとd
- エ aとcとe
- オ bとcとd

第3問

当工場の以下の資料に基づき、単純総合原価計算を採用して、当月完成品の総合原価として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

なお、原価投入額を完成品総合原価と月末仕掛品総合原価とに配分する方法として先入先出法を用いるものとする。材料は工程の始点ですべて投入されており、カッコ内は加工費の進捗度である。

【資料】

(1) 当月の原価

月初仕掛品	200kg (50%)
当月投入	<u>300kg</u>
合計	500kg
月末仕掛品	<u>200kg</u> (50%)
当月完成品	<u><u>300kg</u></u>

(2) 当月の原価

	直接材料費	加工費
月初仕掛品	30,000円	18,000円
当月投入	<u>120,000円</u>	<u>84,000円</u>
合計	<u><u>150,000円</u></u>	<u><u>102,000円</u></u>

〔解答群〕

ア 144,000円

イ 164,000円

ウ 166,500円

エ 171,000円

第4問

A飲食店の、以下の貸借対照表と損益計算書について、下記の設問に答えよ。

資産の部		負債および純資産の部	
I 流動資産	170,000	I 流動負債	100,000
現金・預金	50,000	買掛金	40,000
受取手形・売掛金	115,000	短期借入金	60,000
商品	5,000		
II 固定資産	130,000	II 固定負債	100,000
有形固定資産	120,000	III 純資産	
無形固定資産	5,000	株主資本	100,000
投資その他の資産	5,000		
資産合計	300,000	負債・純資産合計	300,000

損益計算書 (2023年度末) (単位：千円)

I 売上高	1,000,000
II 売上原価	
材料費	300,000
売上総利益	700,000
III 販売費・一般管理費	
人件費	200,000
その他販管費	300,000
営業利益	200,000
IV 営業外収益	
受取利息	2,000
V 営業外費用	
支払利息	6,400
経常利益	195,600
特別損失	5,600
税引前当期純利益	190,000
法人税等	30,000
当期純利益	160,000

(設問1)

当座比率として、最も適切なものはどれか。

- ア 5%
- イ 50%
- ウ 165%
- エ 170%

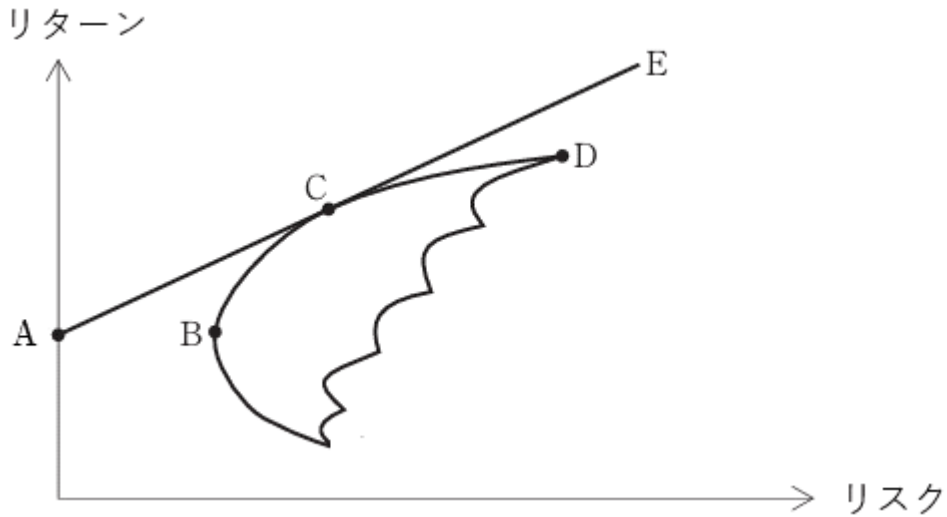
(設問2)

有形固定資産回転率として、最も適切なものはどれか。

- ア 2.3回
- イ 2.5回
- ウ 7.7回
- エ 8.3回

第5問

以下の図は、すべてのリスク資産と安全資産により実行可能な投資機会を表している。投資家のポートフォリオ選択に関する記述として、最も不適切なものを選べ。



- ア 無リスク資産Aが存在しない場合、有効フロンティアは曲線BCDである。
- イ 無リスク資産Aを選択する投資家もいる。
- ウ 接点ポートフォリオである点Cは、投資家の満足度が最大になるポートフォリオである。
- エ リスク資産となる投資機会集合のうち、投資家は有効フロンティア上の組み合わせから、自身の無差別曲線と接する点の組み合わせを選択するのが最適とされる。